

## 令和5年度第1回稲沢市民病院経営強化プラン検討委員会 会議録

【日 時】 令和5年7月4日（火） 13:55～15:00

【場 所】 稲沢市民病院2階 講堂

【出席者】 渡邊有三委員、笠原純一委員、栗木雅洋委員、家田尚彦委員、  
牛嶋みゆき委員、日山正裕委員、浅野隆夫委員、久留宮庸和委員、  
山口竜三委員、住田千鶴子委員、石黒憲治委員  
加藤健司病院事業管理者

【事務局】 市民病院事務局管理課

砂川課長、加藤主幹、櫛田主査、加藤主任

### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付

病院事業管理者が順に委嘱状を交付。

交付後、病院事業管理者挨拶。

(管理者)

人口減少や少子高齢化、医療の高度化など経営環境は厳しい状況が続くが、今後も市民に役立つ病院として、安定経営のもと、良質な医療を提供するために、皆様から様々な御意見をいただき、より良い稲沢市民病院経営強化プランを策定していきたいと考えております。

### 3. 委員紹介

事務局自己紹介、その後、委員の自己紹介。

### 4. 委員長・副委員長選任

委員の互選により、委員長には笠原委員を副委員長には栗木委員を選任。

### 5. 議題

会議の公開・非公開について

(事務局)

総務省からのガイドラインにおいて公表するよう記載があり、プランの中でも「点検・評価・公表」の項目に「ホームページから自由に閲覧できるようにします。」と記載しております。この会の議事録なども委員の発言が特定されないように配慮したうえで、病院ホームページなどで公開させていただきたい。

⇒ 了承

稲沢市民病院経営強化プラン（案）について

（委員長）

議題1「稲沢市民病院経営強化プランについて」を議題として、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

参考資料「公立病院経営強化ガイドライン」

資料3 「稲沢市民病院経営強化プラン（未定稿）」により説明

- 経営強化プランの概要
- 「稲沢市民病院改革プラン」の総括
- 「稲沢市民病院の現状」

（委員長）

事務局の説明が終わりました。

何かご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

（委員）

経営強化プラン策定の背景において、地域医療計画に基づき、稲沢市民病院と稲沢厚生病院との間で統廃合を求めるといったことになっていますが、これについて保健所はどのようなお考えでしょうか。このコロナの感染において、公的病院、公立病院が果たした役割がすごく大きいということが再認識されています。単純に統廃合をしたら、地域住民に対しての利便性がなくなってしまいます。もっと強く存続していくということを見せないといけないと思いますがいかがでしょうか。

稲沢市民病院がこういう病院であってほしいという風に、地域住民がどのように思っているかという事がとても大事で、そのことを市当局がどのように考えて、どのように応援してくれるか。不採算病院でも無くなったら困るわけです。

この稲沢市民病院が残ってほしいという方策をもう少し前向きに書いていただかないといけないと思います。

（委員長）

はい、ありがとうございました。ほかに何かご意見、ご質問はありますでしょうか。それでは、その他ご意見もないようですので、以上で審議を終わらせていただきます。

皆様の慎重審議、誠にありがとうございました。

(事務局)

皆様大変ありがとうございました。

事務局から用意させていただきました議題につきましては以上でございますけれども、その他でございますが、皆さん、何かございますでしょうか。

(委員)

1点、よろしいでしょうか。

例えばかかりつけ医から当院に紹介いただき、当院ではちょっと治療が難しいなという時にはもっと大きな病院に行くということがあると思います。

重症の患者だった場合、当院に紹介いただくよりも、専門医といいますか、例えばこの辺りですと一宮市民病院、大雄会病院、一宮西病院とか結構大きな病院がある訳です。その場合にはかかりつけ医が、稲沢市民病院を紹介しようという事にはならず、ちょっと高度なものだから、もっと大きな病院、例えば大学病院などに行ってしまうと、当院を飛ばしてしまうということがあり得ると思います。そこを「稲沢市民病院があるじゃないか」というぐらいの所まで頑張っしてほしいと思います。稲沢市民病院のことをよく知らない方もまだいらっしゃるの、だからもっといい病院だということを訴えていく必要があると思っており、もっと頑張っほしいなという気持ちがあります。

稲沢市民病院は「何科と何科はいいけれども、こういう病気にかかると、かかりつけ医はもっと大きな病院へ紹介してしまう」という話を聞いたことがあります。だから、そこを飛び越えないで、稲沢市民病院を紹介してもらうようなどころまで本当に頑張っほしいというのが正直な気持ちです。

(委員)

貴重なご意見ありがとうございます。

我々、医療者というのは、患者さんあつての収益でございますので、大前提は、経営強化プランといいましてもいかに患者さんを増やすか、そういう中で今、委員がおっしゃられたことも非常に大事なことで感じております。

病院の中の体制等はより良くしていき、いろんな症例にも対応できるように、ただ、病院の規模等にもよりますが、やはり得手・不得手というのはございますので、得意なところは伸ばして、この疾患であれば当院で全て完治できると、あるいは苦手なところは、早くそれも診断して、これはどこの施設が適切かということ判断して、さらに高度な医療を受けられる所を紹介する、そういうことが当院の役割ではないかと思っています。だから、当院に行けば適切な判断をしてもらえる、得意なところであれば当院で完結する、出来ないという事を早く判断すれば、大学なり高度医療機関に速やかに紹介する、そういうような判断ができ

れば、おのずと信頼を得られて、患者さんが増えるのではないかと考えております。

これまでの3年間はコロナという特殊な状況でありましたので、地域の開業医に対して、交流を持つことはどちらかというとはいけないという状況でしたので、地域に対して病院の情報が不足していたというのはあったかもしれません。これから当院は何が強くて何が出来てということを宣伝していくことも、ひいてはこの経営強化プランに繋がっていくと考えています。

あと委員がおっしゃられた統廃合に関しましては、数字だけ見ていけばあそことあそこが一緒になればいいのではないかとの意見もありますが、実際にかかられる患者さんの立場からすればすごい遠方にかないといけないということにもなりますので、数字だけ見ていても現実的ではないので、そうならないようにするためにも当院の存在意義を示して、統廃合という言葉が出ないようにしていく必要があると思っています。

(委員)

あともう一点、よろしいですか。

以前、当院をめまいで受診したのですが、その時に脳神経外科なのか眼科なのか耳鼻科なのか、よくわからなかった事がありました。

最初は一番怖いところから考えていただきまして、脳神経外科に行きました。結果、脳神経外科ではないということになりまして、耳鼻科に回ってくださいと言われました。

当初に受診するときに、例えば総合内科っていうような所はないのでしょうか。というのは、例えば1か所受診して、次は耳鼻科にかかってくださいと言われた時にもう1回耳鼻科の受付に行きます。そうしますと受診してから結構時間がかかってしまいます。

だから一番最初に行った時には「こういう内容だところだと思えます」という風にある程度診断できるような診療科があっても良いのかなあという思いがありまして。受診したけれどここじゃないという時に、すぐに次に回していただければいいのですが、もう1回最初の再来機から通していかないといけない。

やっぱり早く診断できるような体制を望みますよね。

かかりつけ医から紹介いただいて、すぐにここが悪かったんだということが分かるぐらいの、そういう総合内科的なものがあるのもいいのではと思います。

少し前に老齢内科を作られまして、高齢者にあるような症状を全部拾ってもらえるので、非常に便利でありがたいことなんですよね。

一括ですぐに判断できるような診察システムというようなことも考えていただければありがたいなという風に感じています。

(委員)

委員からいつでも安心してかかれる総合的な病院にという話がありました。そういう病院を作りたいというのは、どこの病院も同じです。しかし、今の国が考えている地域医療構想というのはそうではなく、急性期に強い病院をそれぞれの診療件に1つずつ作って、その周りに連携病院を作るという構想なんです。

日々信頼を集めるのが病院の使命で、稲沢市民病院が今すぐ一宮市民病院や第一赤病院のような巨大病院のように医師を100何十人も集めてやっていけるかということそれは無理なんです。

そういうところで、今、全部診られるという所に力を入れるべきかどうかというところ、この稲沢市民病院は脳神経外科や外科がすごく強いわけです。そういう特色のあるメリハリを、地域連携を活かしてやっていくっていうことが、今すぐの経営改善計画にも役立つのではと思っています。今、背伸びして、お金をどれだけ使ってもいいから、医者をどんな給料でもいいから集めるように言われればそれは誰でも出来ます。でもそんなことは出来ないで、そこのところはちょっと是非理解していただいたうえで、稲沢市民病院の経営改善計画に貢献していただけるとありがたいと思います。やれることとやれないことがあるので、この5年間の中でやれることというのは、稲沢市民病院の急性期の特徴ある診療をグッと伸ばすことではないかと思っています。

(事務局)

今後の委員会のスケジュール説明及び次回日程調整  
日程調整後、病院事業管理者挨拶

(管理者)

本日は議論いただきましてどうもありがとうございました。

当院も今いろいろやりたいことはたくさんあるのですが、なかなか出来ない現状もございます。その中で住民のお役に立てるような計画を策定していきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

久留宮さん

医師が47人まで増えるならもっと数字は伸びるのでは？

院長も患者数の増が一番と言っていた。

P23 救急搬送件数も2,500で頭打ちに見える。

P32 32床を開けるには看護師が足りないのでは。 など

医師が8人も増えているのに受入れ体制が現状に近いようではそのズレを言われるのではないか。